

小木港

新潟県交通政策局港湾整備課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

☎025-280-5466

URL : <http://www.pref.niigata.jp/kowanseibi/>

1. 概況

小木港は、佐渡ヶ島の南端に位置する天然の良港で、寛永8年(1636年)頃より、佐渡金山の金銀輸送が本格化するにつれ繁栄した。また、寛文10年(1672年)河村瑞賢によって、西回り航路の寄港地に指定されたことにより、来航船舶も一層増加し、佐渡第一の港となった。当時は、北陸・山陰・山陽をはじめ、奥羽・北海道諸港からの商船が来航し、島内流通の貨物の集散地として繁栄した。又、対岸越後との交通は主として出雲崎港との間に航路がとられ、当時の佐渡奉行の渡海や金銀塊の輸送に利用されていた。

本港は、直江津港との生活航路に加え、佐渡観光の拠点港として、両津港とともに主要な役割を担い、逐次整備が進められてきた。昭和49年(1974)には、重要港湾の指定を受けるとともに、新たに港湾計画も策定され、本格的な整備が開始された。昭和60年(1985)には旅客ターミナルが完成し、また、平成5年(1993)にはフェリーの大型化に対応したフェリーふ頭が供用開始するなど、佐渡の南の玄関口としての整備が進められてきている。この間、本土側的高速交通体系の整備に伴い、平成25年(2013)の乗降客数は約16万人となっている。

現在の直江津港との間の定期航路は、昭和に入った後、対岸の鉄道拡張に伴って開設されたものであり、平成27年(2015)4月から新造船「あかね」が就航している。

一方、羽茂地区は、平成10年(1998)に小木港と合併したが、江戸時代には、大阪方面への米の積み出し港として、また、鉄の移入やそれを原料とした稲こぎ千歯の移出で越後や出羽への交易の中心港として発展した。明治に入ると地の利を生かした味噌産業が発展し、一時期は取扱貨物量においては、新潟、両津、直江津の港について県下4位を占め、産業港湾として活況を呈していた。

小木港は、平成9年(1997)に平成20年(2008)代前半を目標年次として港湾計画を改訂しており、佐渡観光の玄関口にふさわしい賑わいと潤いのある港湾空間の形成のため、フェリーを中心とした人流機能と物流機能を適切に分離し、機能強化を進めていくこととしている。

小木港周辺は、矢島・経島などの名勝地を有する佐渡弥彦米山国定公園に指定されており、近接して美術館や海運資料館などの文化施設がある他、毎年さざえ祭りやアースセレブレーション(国際音楽祭)などのイベントなどに利用される城



上 = 小木港、下は同羽茂地区

山公園があるなど、景観・観光資源に恵まれた地域である。港内においても観光船が就航したり、一部水域がたらい船遊覧に利用されるなど、周辺の観光資源と一体となった空間の利用が図られている。

さらに、フェリー航路で結ばれている対岸の直江津港背後においては、既存の高速道路に加えて、平成27年(2015)3月に北陸新幹線が開業し、今後、さらなる観光客の増加と観光拠点港としての発展が期待されている。

また、羽茂地区においては、近年、砂・砂利・石材等やセメントなどを取り扱い、佐渡南西部の流通港として大きな役割を果たすことが期待されている。